

令和4年度 蓮田市立蓮田南中学校

1. 研究主題

生徒の発信力を高め、互いに伝え合う指導の工夫
～Retelling の継続的・計画的な指導を通して～

2. 目指す生徒像

英語を使って積極的にコミュニケーションを図り、自ら学び、考え、表現できる生徒

3. 主題設定の理由

本校生徒は学習に対する意欲が高く、県の学力・学習状況調査においてもほとんどの教科で県平均を上回っている。しかし、「話すこと(やりとり)」においては苦手意識が高く、会話を継続させる力や、互いの考えを伝えあう力を育成することが課題と捉えている。本市で使用している教科書 Sunshine では、2年生より各 Program の終わりに Retell のページがある。この活動を継続的・計画的に行うことを通して、教科書で学んだ内容を自分の言葉で要約し、自分の考えを1文加えて友達に伝える力を身につけさせたい。自分の言葉で発信し、友達と問答することを通して、英語を使って教科書のテーマについて学びを深める授業を創造したいと考え、本研究主題を設定した。

4. 研究の概要

(1) 小中の連携

- ・ 授業の相互参観
- ・ Classroom English の共有による相づちの指導

Uh-huh. / Wow! / I see. / Sure. / Of course. / Really?
That's good. / Me too. / Oh, …(相手の言葉を繰り返す)

(2) Retelling の計画的、継続的指導

① 目標

- ・ 1年生 Topic Talk を中心としたやりとりの活動を行い、会話を1分間継続する。
- ・ 2年生 教科書の Retelling をペアで行い、自分の考えを付け足して話す。
- ・ 3年生 教科書の Retelling をペアで行い、内容について即興で質問し、互いの意見を交換する。

② 方策

(ア) 計画的・継続的な指導

教科書本文(Think)を学習した次の時間に、前時の復習として簡単な要約や問答による Retelling を行った。また、Think1~3 の学習が全て終わった後に、1人1つの担当を決めペアで練習する活動を、各 Program で実施した。その際、教科書の要約文の穴埋めプリントなどを使って文章を先に考えさせ、話す際にはキーワードのみを見るよう徹底し、ペアで教え合いながら繰り返し行った。3学年では、Retelling の後に内容について相手に質問し、その場で互いにやりとりする活動まで指導した。

<各 Program の授業計画イメージ>

第1~3時	Warm-up	文法導入	Scenes	Practice
第4時	Warm-up	文法復習	Think1 導入	Reading
第5時	Warm-up	Think1 Retell	Think2 導入	Reading
第6時	Warm-up	Think2 Retell	Think3 導入	Reading
第7時	Warm-up	Think3 Retell	Think1~3 Retell	

(イ) 型の提示

「Retelling のコツ」として、話す際の型を指導した。

Retelling のコツ

- (1) 状況を説明する 例) ○○ is talking about ~.
- (2) 本文から重要な部分を選んで話す
- (3) 自分の考えを話す 例) I think 主語+動詞~.
- (4) (3年生のみ) 内容について相手に質問する

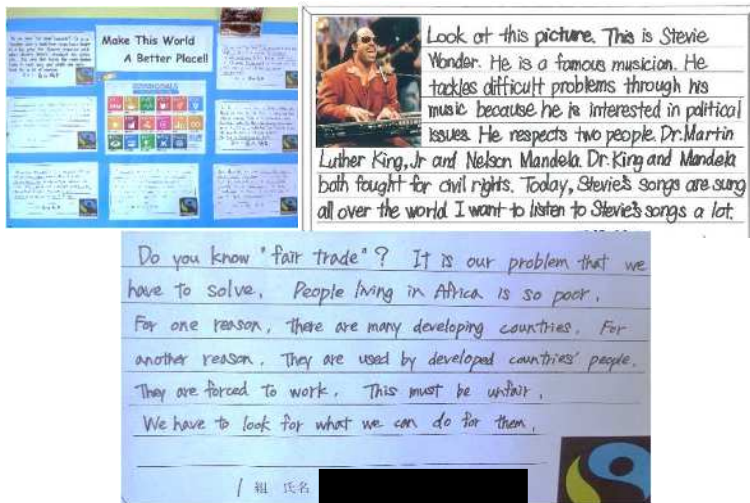
型を提示したことで、どのような順序で話すかがわかり、Retelling への苦手意識を下げる事ができた。また自分の担当する Think (本文) を1つにしぼり、ペアを変えながら繰り返し練習することで、友達との真似をしながら話すことができるようになった。生徒の発話量を以下の Word Counter を用いて測定したところ、回数を重ねるごとに発話量が増えていくことがわかった。

Date	Topic	Summary	Something New	WPM
10/19	self-introduction	\	\	38 WPM
10/19	Program 5-2	○	○	58 WPM
10/20	会いさにか帰所	\	\	52 WPM
10/25	昨日の生活	\	\	40 WPM
10/27	日本の海外	\	\	39 WPM
10/31	山の森	\	\	48 WPM
11/4	Think 6-2	○	○	78 WPM
11/7	小学校の中学校	\	\	49 WPM
11/11	車旅と電車旅	\	\	52 WPM

3年生の記録 (Word Per Minute が少しずつ伸びている)

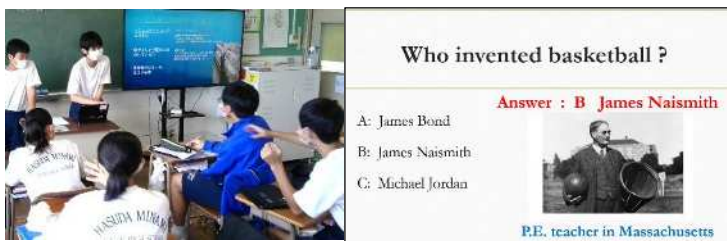
(ウ) 掲示物の作成

上手にまとめて話すことができている生徒に掲示物を作成させ、モデルとして廊下に掲示した。



(エ) Retelling 発表会

3人組で一つの Program を担当し、Power Point を用いて発表する活動を行った。内容に関する3択クイズや穴埋め、質問と受け答えなど、発表者と聞き手が主体的に参加し、活気ある授業となった。



③ 成果

11月に全学年でアンケートを実施したところ、Retelling について以下のような回答が目立った。

質問① Retelling の活動で、難しいと思うことを教えてください。

- ▲単語から英文にするのが難しい。
- ▲語順がわからない。
- ▲どのように話したらいいかわからない。

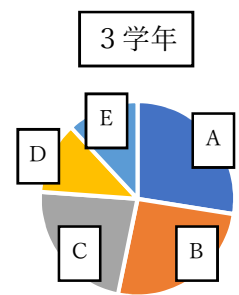
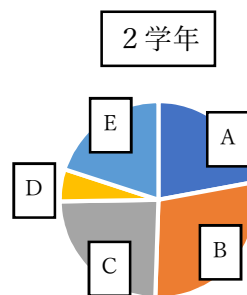
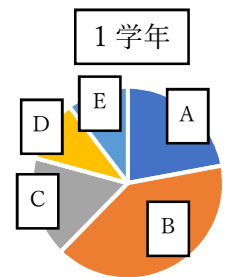
質問② Retelling の活動を通して、あなたに身についたと思う力について記入してください。

- ◎自分で文を作ることが少しできるようになった。
- ◎教科書の大切な部分を考えて話すことができるようになった。
- ◎内容を要約して話すことができるようになった。
- ◎つなぎ言葉を使って内容をまとめることができた。
- ◎その場で質問したりすることで、内容をより深めることができるようになった (3年生)。

これらの記述から、繰り返しの指導や型の提示により生徒が活動に慣れ、「できるようになってきた」という自信につながっていることがわかった。英語が苦手な生徒にとっては友達の真似をしながら1~2文話す練習、英語が得意な生徒にとっては要約や言い換えの練習となっており、習熟度に応じて内容の濃い学習活動を行うことができている。さらに3学年では、内容について互いに問答する「やりとり」の練習まで発展させることができ、即興で話すことへの自信につながっていることがわかった。

質問③ あなたが得意と思う活動はどれですか。

- A 読むこと (英語の長文など)
- B 聞くこと (リスニングなど)
- C 書くこと (文法問題や英作文など)
- D 話すこと やりとり (英語での会話)
- E 話すこと 発表 (覚えた原稿の発表)



アンケート結果より、1学年では「B:聞くこと」、2学年では「E:発表」、3学年では「D:やりとり」と、各学年で力を入れて指導してきたことに関して、「得意」という実感につながっていることがわかった。また、学年が上がるごとに「話すこと」に対する自信が付き、3学年では「やりとり」に対して得意と思う生徒が多かった。これは、Retelling 指導の一定の成果であると捉えられる。

5. 成果と課題、今後の取り組み

Retelling は英語学習の中で難易度の高い活動であるが、継続的、計画的な指導によって、「自分で英文を作って話せる」という自信につながっていることがわかった。今年度は1学年の2学期から少しずつ授業でRetelling を行い、早期に活動に慣れさせるよう英語科で協力して取り組んでいる。今後も3年間を見通し、自分から主体的に発信する力を伸ばしていけるよう指導していきたい。